

いしかわ

# まちづくりView

No.23

## スマートIC社会実験

～高速道路の有効活用方策の検討～	1・2・3
あのみち、このまち“まちづくりめぐり”	
～一般国道249号藤橋バイパス工事着手～(七尾市)	4
～生まれ変わる白山市松任駅前～(白山市)	5
まちづくりの動き	
小松能美都市圏OD調査	6
住まいミーティング in金沢	7
センターだより	8

財団法人いしかわまちづくりセンター

特集

## スマートIC社会実験

～高速道路の有効活用方策の検討～

### 1. 背景と目的

日本の高速道路が利用されにくい理由の一つに、隣接するインターチェンジ（IC）間の距離が長いこと（平均約10km）が挙げられます。そこで、国土交通省では、既存の高速道路の有効活用や地域経済の活性化を推進するため、建設費や管理費を削減できるスマートIC（ETC専用IC）の導入を検討しています。

本実験は、一般道に容易に接続可能な既存のサービスエリア（SA）やパーキングエリア（PA）にETC専用の仮設出入口を設置し、スマートIC運営上の課題等を把握するものです。

【SA・PAに接続するスマートICイメージ図】



### 経緯

- 平成16年 4月 6日～23日 国土交通省が候補箇所を募集
- 平成16年 6月18日 全国の実験候補箇所35箇所が発表される  
( 順次、実施計画書を作成し、申請 )
- 平成16年 7月23日 第1次採択として全国20箇所が採択される ( 徳光PAが採択 )
- 平成16年 9月 2日 第2次採択として全国7箇所が採択される
- 平成16年11月11日 第3次採択として全国1箇所が採択される ( 尼御前SAが採択 )

# 特集 スマートIC社会実験

## 2. 実施箇所

石川県内の北陸自動車道には、全部で4つのSA・PAがありますが、実験対象箇所の条件として、接続する一般道路の構造改変が軽微で用地買収が伴わないこと。

SA・PAや接続道路における交通安全の確保が可能であること。

実験目的が明確で、実施期間において効果把握が期待できること。

以上の3つを満足する必要があったため、「徳光PA」と「尼御前SA」を候補箇所として登録したところ、2箇所とも実験箇所として採択を受けました。

また、石川県内の2箇所を含め、全国で35箇所の登録があり、そのうち28箇所が採択を受けています。



位置図

## 3. 実験概要

### 徳光PAスマートIC社会実験

実施主体 徳光PAスマートIC地区協議会

構成団体  
国土交通省、日本道路公団、石川県、白山市  
白山商工会議所

実施期間 平成17年4月11日(月)12:00  
~ 8月31日(水)24:00

実験期間中の毎日、24時間の運用

対象車両 ETC装着車

(ただし、二輪車及びけん引車両は除く)

上り(福井方面): 全車種

下り(富山方面): 軽自動車、普通車

北陸道を横断する既存通路に制限があるため

幅4.0m x 高3.4m

### 尼御前SAスマートIC社会実験

実施主体 尼御前SAスマートIC地区協議会

構成団体

国土交通省、日本道路公団、石川県、加賀市  
加賀商工会議所、加賀市観光協会  
山中町商工会、山中温泉観光協会  
橋立地区まちづくり推進協議会、金明地区まちづくり推進協議会

実施期間 平成17年6月1日(水)

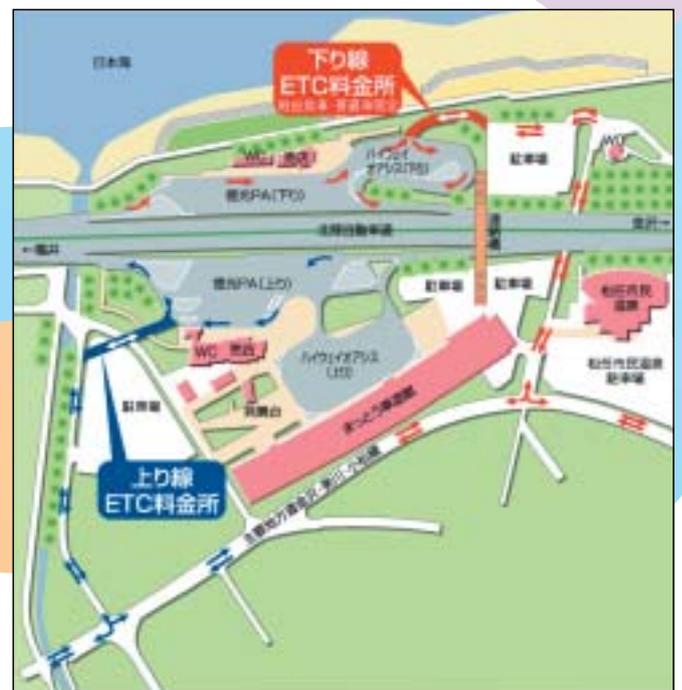
~ 8月31日(水)

実験期間中の毎日、6時~22時の運用

対象車両 ETC装着車

(ただし、二輪車及びけん引車両は除く)

上り・下り: 全車種



徳光PAスマートIC 平面図

# 高速道路の有効活用方策の検討

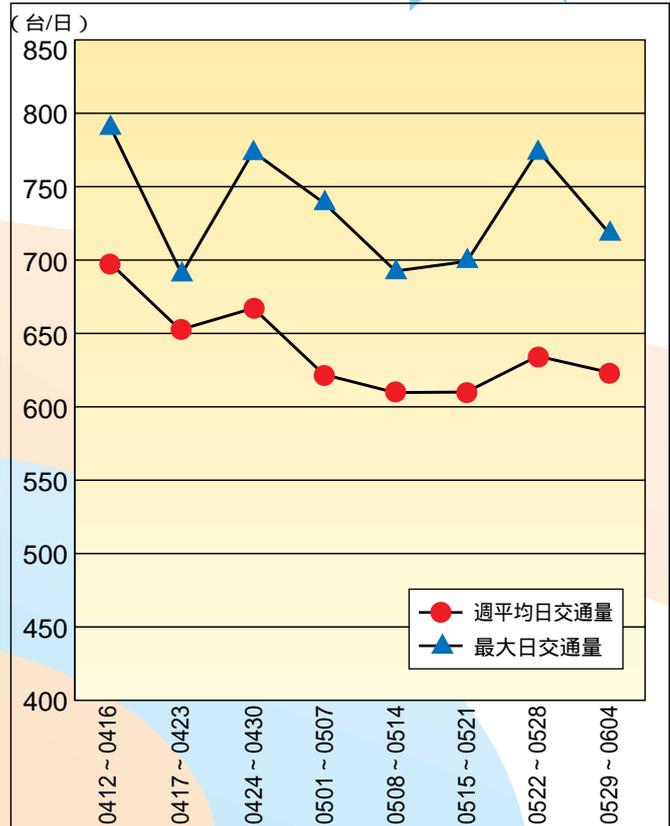


徳光PAスマートIC 利用状況

## 4. 利用状況

徳光PAでは、実験開始から6月4日までで、1日当たりの平均が約640台/日、一番多い日で約790台/日の利用があり、尼御前SAでは、1日当たりの平均が約130台/日、一番多い日で約160台/日の利用があります。

両箇所とも近接して海水浴場があり、これからの夏場の利用が多くなると期待されています。



徳光PA 利用状況

## 5. おわりに

今回の実験では、アンケート調査等により、地域の産業・観光への影響も把握し、追加ICの地域活性化効果も検証することとしています。

これを機会に普段は乗り降りできないSA・PAから高速道路に“乗ってけ、乗ってけ、ETCでえ～、レジャーに通勤に”

(ラジオななお・かなざわ・こまつで放送中)



尼御前SAスマートIC 平面図

## 七尾市

### ～一般国道249号藤橋バイパス工事着手～

#### 1. はじめに

平成16年9月に、一般国道249号藤橋バイパスの起工式が、谷本知事や地元選出県議会議員の御臨席のもとに開催されました。

藤橋バイパスは、七尾市、田鶴浜町、中島町、能登島町が合併し、「人が輝く交流体感都市」をキーワードに発展を目指す、新七尾市の骨格を形成する主要幹線であり、平成8年の事業着手から9年の歳月を経て、着工の運びとなりました。以下に藤橋バイパスの概要をご紹介します。



起工式

#### 2. 七尾市中心部の道路状況

七尾市は、七尾港に沿って中心市街地が発展しており、国道159号、160号、249号や主要地方道七尾輪島線、七尾羽咋線が放射状に整備されています。



概要図

一方、JR七尾線が市街地を東西に分断していることから、環状道路の整備は遅れており、中心市街地に用事の無いクルマでも七尾駅前を通過することによる慢性的な交通渋滞が発生しています。

#### 3. 整備の概要

都市計画道路外環状線の七尾市古府町～国分町間(L=3.1km)を一般国道249号藤橋バイパスとして事業化しており、特に事業効果の高い国道159号～主要地方道七尾羽咋線間(L=1.4km)を1期整備区間と位置づけ、暫定2車線で平成20年代前半の供用を目指しています。

早期の供用を図るため、整備コストの縮減に取り組んでおり、歩道幅員や地盤改良範囲の見直しなどを行っています。



施工状況

#### 4. おわりに

現在七尾市中心部では、能越自動車道、国道159号七尾バイパス、七尾道路、七尾駅前市街地再開発、シンボルロードなどの各種事業が進んでいます。これらの事業と藤橋バイパスとの一体整備により、交通混雑の解消、地域間交流の強化、道路ネットワークの形成などの効果が期待されています。

**整備効果**

**1 交通混雑の解消**

七尾市街地を通過する交通を緩和し、中心部の放射状な交通網を構築します。

**2 地域間交流の強化**

能登島の発展により、JR七尾線が分断されている七尾市の東西間を一体化し、地域間交流を強化するとともに、七尾市独自の活性化や七尾環状線の発展に寄与します。

七尾市街地

能登島

七尾市

**3 道路ネットワークの形成**

七尾市が計画段階である歩道状況の一部を盛り込み、一部区間(150m)七尾バイパスと一体的に道路ネットワークを完成し、七尾市街地へのアクセス性が向上します。

整備効果

## ～生まれ変わる白山市松任駅前～

### 1. はじめに

白山市は、県内で人口第2の都市としてこの2月に誕生した市です。

この市の玄関口である松任駅前では、平成14年度から市が主体となって区画整理事業を進めています。

このほど、事業の整備内容がほぼ決まりましたので紹介します。



### 2. コンセプト

駅前整備のコンセプトは、「文化のまち “水” 百年物語」として

歴史文化を継承し風格あるまちづくり  
自然と共生し四季の美しいまちづくり  
優しさを感じ交流を育むまちづくり  
を、整備するとしています。

### 3. 整備内容

既存道路の修景ばかりでなく、本格的に駅前広場



の再整備を行います。駅舎から各乗降口までシェルターを設置し、白山の伏流水をイメージした水のモニュメントを創出します。

また、駅の南北を結び鉄道をアンダーパスで通る金剣通り線を新たに整備します。

### 4. 整備手法

この整備にあたっては、区画整理事業の他に、国の「ふるさとの顔モデル整備事業」の指定を受け、よりグレードの高い整備を目指します。

### 5. 最後に

松任駅前には、平成15年に着手した松任駅北相木地区土地区画整理事業により新設される駅北広場整備と併せ今後大きく生まれ変わります。

また、北陸新幹線の整備に併せ、駅舎そのものも生まれ変わるかもしれません。

# まちづくりの動き

## 小松能美都市圏OD調査

平成17～19年度にかけ、小松市・能美市の地域では両市が主体となり、都市OD調査（自動車起終点調査）を実施します。この地域において、この調査が行われるのは、昭和55～56年度、平成2～4年度に続き、今回が3回目となります。

OD調査は都市交通に関する調査の1つであり、総合的な都市交通計画の立案のために実施するものです。

### OD調査とは・・・

OD調査（自動車起終点調査）とは、自動車の1日の動き（出発地、目的地、運行目的など）に着目した自動車交通の実態調査です。

この実態調査により自動車が集まるエリアはどこか、こういった目的で自動車が使われているのか等、自動車交通の需要や課題等を知る手がかりが得られます。これを基礎データとして将来の交通計画の策定に利用します。

実態調査の手法には「路側OD調査」、「オーナーインタビューOD調査」の2種類があります。

「路側OD調査」とは、路上で調査員が運転者に対して聞き取り調査を行うものです。

「オーナーインタビューOD調査」とは、調査員が自動車所有者の自宅を訪問するなどにより、OD調査票をお配りし、答えて頂くものです。

なお、今回の「小松能美都市圏OD調査」は「オーナーインタビューOD調査」により実施し、調査の対象者は、小松市・能美市に在住の方の中から無作為抽出により決定する予定です。

### OD調査における調査内容の概要

自動車の所有者の性別、年齢、就業形態  
車種（軽自動車、乗用車など）  
出発地、目的地（経由）、目的地（最終）  
駐車場所（有料駐車場、無料駐車場など）  
出発時刻、到着時刻  
自動車の乗車人員数  
自動車移動の目的（出勤、帰宅、食事など）  
自動車移動距離

### 調査スケジュールの概要（予定）

OD調査では、実態調査に始まり、将来交通計画の策定までを行います。これに要する期間として概ね3年間で予定しています。

調査初年度である平成17年度は実態調査を実施し、データの収集を行います。

#### 交通データの収集（平成17年度）

- ・調査項目、調査内容の検討
- ・実態調査の実施

#### 現況交通、課題の整理および検討 （平成18年度）

- ・現況の交通需要、課題の整理
- ・将来交通体系の基本構想の検討

#### 将来に向けた都市交通計画の策定 （平成19年度）

- ・将来交通体系の基本計画立案
- ・将来道路網計画の策定

### おわりに

小松市・能美市は、前回OD調査を実施した平成2年度以降、小松駅連続立体交差事業の完成、国道8号小松バイパスの開通など、道路状況が大きく変化しました。これを踏まえ、今回のOD調査では、改めて自動車交通状況を調査し、従来の将来道路網計画を検証したいと考えています。

本調査は、一般の皆様のご協力をいただきながら実施する調査です。OD調査票が皆様のもとに届きました時には、ご協力をお願いいたします。

なお、実態調査の実施は、今年の秋頃を予定しております。よろしくご協力いたします。

（石川県土木部都市計画課 都市政策グループ）

# 住まいミーティングin金沢

～ 中心市街地における高齢者の住まいのあり方を探る～

## 1. 住まいミーティングとは？

現在、住宅政策の基本的方向や推進すべき施策を内容とする「石川県住宅マスタープラン」（計画期間は平成18～27年度の10年間）を作成中です。その一環として、県内の各地区で住まいづくり、まちづくり、むらおこしに関心のある者が集まって意見の交換を行い、マスタープランに県民の意見を直接取り入れることを目的として「住まいミーティング」を実施しています。同時に、その地域の住まいづくり・まちづくりの気運が高まることも期待しています。

	会場	テーマ
第1回(H16.12)	門前町	過疎のむらから住まいを考える
第2回(H17.05)	金沢市	これからの居住福祉のあり方
第3回(H17.秋)	加賀市	町家、温泉街の再生(予定)

## 2. 住まいミーティングin金沢

第2回である今回は、金沢市を会場とし、中心市街地での高齢者の集住形態のあり方など、これからの居住福祉環境、すなわち誰もが安心して生活できる住まい・まちづくりのあり方をテーマとして開催しました。

開催日	平成17年5月28日(土)
メイン会場	石川県文教会館
参加者 (計31名)	公募参加者、高齢者居住福祉施設計画関係者、高齢者向け優良賃貸住宅管理者、有料老人ホーム管理者、住宅マスタープラン検討委員会委員、行政福祉関係職員、事務局
視察地	・有料老人ホーム「シティモンド金沢」 ・高齢者向け優良賃貸住宅「グリーン・ソサエティ犀川」
ミーティング	・講演、事例紹介、施策紹介 ・ディスカッション



(左) シティモンド金沢  
ホテルを改修し、有料老人ホームに再生させた施設  
(右) グリーン・ソサエティ犀川  
金沢市中心部に建つ、高齢者居住のモデルケース

## 3. ミーティングでの主な意見

- ・子は親の介護をしたくない、親も子に介護してもらいたくないという意見が多い。自分も高齢者になるという視点を持って、住まい方を考える必要がある。
- ・今後は要介護者にならないための住宅のあり方が重要になってくる。高齢者＝要介護者ではないことを認識するべきだ。
- ・(高齢者住宅施設管理者) 当住宅は、居室は15㎡で、トイレはあるが、風呂、キッチンは共用である。見学に訪れた方の感想は、「狭い」だが、要介護認定者は「このくらいがちょうどよい」とのことである。住む人の特性に応じた規模・設備を考える必要がある。



ミーティング風景

- ・単身高齢者が増えているが、ひとりで家一件を維持していくのは難しい。集って住むことも考え方としてあるが、メンテナンスが可能な、規模の小さな家であれば終の棲家とすることができるのではないかと。
- ・高齢者の多様なニーズには、一般の分譲マンションでは応えきれない部分がある。何人かが集まってコーポラティブ形式で建設をすることにより対応ができるのではないかと。

## 4. おわりに

想像していた以上に活発な議論が行われ、居住福祉環境に対する意識、関心の高さがうかがわれました。今回の意見を参考としつつ、よりよい住宅マスタープラン策定を目指します。なお、第3回住まいミーティングは秋頃に加賀市での開催を予定しています。

(石川県土木部建築住宅課住宅政策グループ)

## 『ほっと石川まちづくり巡り』情報

『ほっと石川まちづくり巡り』HP開設！！

昨年度、当センターでは石川のまちづくりを全国発信し、新たな視察型観光を誘致することを目的とし、「ほっと石川まちづくり全国発信事業」を実施しました。昨年度は、視察者をまち案内する「まちづくり語り部さん」の育成、PRパンフレットの作成を行いました。

本年度に入り、PRパンフレットの全国配布等により広報活動を進めており、その一環として本年度5月に『ほっと石川まちづくり巡り』のホームページを開設しました。県内15地区（6市2町）のまちづくり情報や26名の「まちづくり語り部さん」の紹介など、まちづくりに関する情報が満載です。皆様からのアクセスをお待ちしています。



### トップページのアドレス

[http://www.pref.ishikawa.jp/machicen/machimeguri\\_04/index.htm](http://www.pref.ishikawa.jp/machicen/machimeguri_04/index.htm)

### まちづくり巡り事例報告

平成17年4月17日に、粟津湯の里塾のメンバーら21名が輪島市・馬場崎商店街を視察訪問しました。

一行は馬場崎商店街のまちづくり語り部さ



まちづくり語り部さんとの意見交換

んに「輪風の街並み」の案内を受け、まちづくり交流サロン「かたりましよ語馬処」で意見交換を行いました。一行の代表は「気軽に立ち寄れるまちづくりの拠点づくりが必要」、「住民がまちづくりの場に出られるよう啓発し、意識を高めていきたい」としました。

みなさんも個性豊かな石川のまちづくりを見に来ませんか？まちづくり語り部さんが熱烈歓迎で迎えてくれるはずです。

## 「松任駅南まちづくりシンポジウム」

平成17年3月21日に白山市で「松任駅南まちづくりシンポジウム」が開催されました。

シンポジウムは松任駅南土地区画整理事業の概要説明に始まり、角白山市長の挨拶、まちなか散策、パネルディスカッションが行われました。

まちなか散策では金城短期大学の学生がリーダーとなり、参加者が4つのグループに分かれまちなかを散策し、グループごとに現況の報告や将来像を語りました。

パネリストからは「駅前を生涯学習の拠点に」、「駅前に子育て支援施設を」、「食に関する施設の充実を」などの意見が出されるとともに、一般参加者からも「白山をシンボルに」、「新幹線の開業を視野に入れたまちづくりを」など活発に意見交換がなされました。



まちなか散策の様子

## 編／集／後／記

今回は「北陸道 スマートIC社会実験」について特集しました。スマートIC導入に向けた今後の動向にも注目していきたいと考えています。

また、みなさんの町のまちづくり活動や団体など、紹介したい記事がありましたら、当センターまでご連絡をお願いします。

編集協力：石川県都市計画課  
発行：(財)いしかわまちづくりセンター  
TEL 076-225-1905 FAX 076-225-1943  
HP://www.pref.ishikawa.jp/machicen/index.htm  
発行日：平成17年7月